



指導者のための情報紙

# アポーリ、ともだち仲間たち

No. 1

発行：財団法人 埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団 〒336-0007 さいたま市浦和仲町3-5-8 県立武道館内

埼玉県スポーツ少年団

## 創設40周年記念事業を実施

～11月に記念パーティーを開催～

スポーツ少年団は、東京オリンピックを2年後に控えた昭和37（1962）年、「青少年にスポーツの欲びを」「スポーツをとおして青少年の身体と心を育てる地域社会の実現を」との願いのもとに創設されました。

全国に先駆けて同年に発足した埼玉県スポーツ少年団は、今年で創設40周年を迎えました。そして、現在では県内すべての市町村にスポーツ少年団本部が設置され、平成13年度の登録状況では1,779団、59,243人の団員、15,837人の指導者を擁する全国一の組織規模と充実した活動が展開されています。

そこで県本部では、平成14年度を「スポーツ少年団創設40周年記念年」と位置づけ、スポーツ少年団活動のさらなる充実・発展を期するため、種目別冠大会や記念誌の発刊など各種記念事業を実施します。なお、現在、記念事業の具体化に向けて、40周年記念事業実行委員会を組織し、各種事業の詳細についての検討・準備に取り組んでいます。

ここでは記念事業の概要についてお知らせします。

### 記念事業の概要

#### ▶記念パーティー

平成14年11月に開催

#### ▶種目別記念大会

13種目の記念（冠）大会の開催

#### ▶記念誌の発刊

あゆみや活動状況を収録した記念誌の発刊

#### ▶メディアを活用したPR活動

スポーツ少年団活動に対する理解や協力・支援の拡大を図るため、埼玉新聞での広告掲載のほか、各メディアを活用したPR活動の展開

#### ▶記念表彰

永年にわたり活動し、特に功労のあった指導者を対象にした記念表彰の実施

#### ▶その他

ITを活用した情報提供

創設40周年記念事業及びスポーツ少年団活動の意義をアピールする活動の展開

### 埼玉県スポーツ少年団のあゆみ

- 昭和37年 日本スポーツ少年団発足と同時に県内約200人の団員によりスポーツ少年団が誕生
- 38年 県本部の設置
- 42年 埼玉国体に参加・協力
- 47年 創設10周年記念大会の開催
- 49年 初の日独同時交流受け入れ
- 51年 指導者協議会の結成
- 52年 第1回指導者現地研修会を開催
- 53年 リーダー会の結成

### 代議員制度の導入

- 第9回関東ブロック大会を開催
- 55年 団員4万人突破記念親子スポーツ大会を開催
- 57年 創設20周年記念式典を開催
- 59年 第15回関東ブロック大会を開催
- 平成4年 創設30周年記念事業の開催
- 9年 第23回関東ブロック大会を開催
- 10年 第35回全国スポーツ少年大会（埼玉大会）を開催
- 13年 関東ブロック競技別大会の開催
- 14年 創設40周年記念事業の開催

# 県スポ少本部って?

この質問にお答えします

平成11年度に実施したアンケート調査において県本部への意見の中で多かった「県本部は日ごろ何をやっているか分からぬ」という疑問にお答えするものとして、今回は「組織の概要」についてお知らせいたします。

埼玉県スポーツ少年団は県内市町村スポーツ少年団によって構成する代表組織体です。そして本部長・副本部長を中心に、各市町村スポーツ少年団から選出された1名の代表者と県体育協会会長の指名する者、学識経験者の合計120名程度で代議員会(原則年1回開催)を組織しています。

代議員の中から40名以内で組織される本部員会は、必要に応じて開催され、すべての事業を統括しています。

また、県本部で実施する事業を専門的に検討し、協力することを目的として専門委員会が組織されています。

## 専門委員会の主な活動内容

専門委員会は現在5委員会あり、それぞれが独立して活動しています。各委員会の連絡・調整を図るため委員長会を開催しています。

### 《育成・広報委員会》

育成に関する調査や研究(総合型地域スポーツクラブなど)、広報活動、特別事業(40周年記念事業)、母集団育成などを担当。

### 《事業委員会》

各種県大会・関東ブロック大会・全国大会などの参加、協力に関することや国際交流、各種競技団体等との連携などを担当。

### 《指導者委員会》

指導者の資質の向上に関する研修や交流に関することや指導者の発掘、ブロック及び全国指導者協議会との連携などを担当。

### 《リーダー育成委員会》

ジュニアリーダーの養成や県・市町村リーダー会への支援、加入促進などを担当しています。

### 《規約検討委員会》

本部規約や指導者の協議会規約などを検討することを担当。

## 埼玉県スポーツ少年団本部

本部長  
副本部長

本部員会  
(40人以内で組織)

代議員の中から代議員会において選出し、本部会がこれを委嘱する

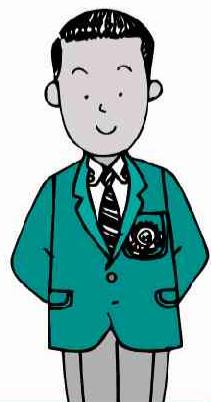
### 専門委員会

本部長の推薦により若干名を選出する

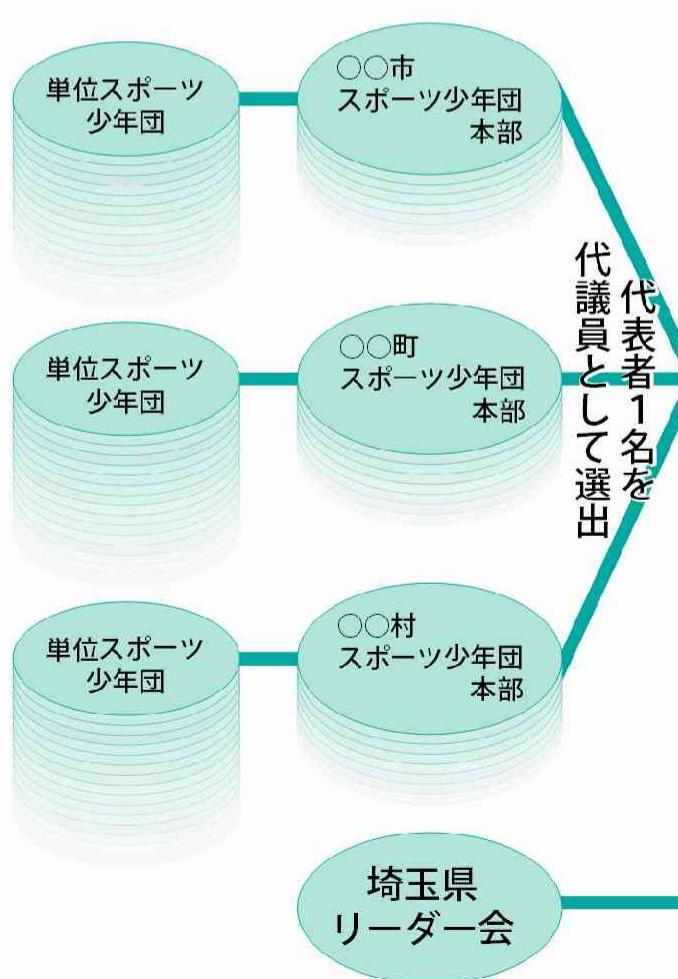
代議員会  
(120人以内で組織)

- ・各市町村1名
- ・県体育協会
- ・県指導者協議会
- ・学識経験者

日本スポーツ  
少年団



埼玉県  
リーダー会



# 平成13年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会報告

平成14年1月26日(土)～27日(日)

群馬県伊香保温泉 ホテル「福一」

種目別大会の運営、年間の行事予定の打ち合わせと指導者の情報交換、交流を目的として、県内51市町村から種目別の指導者及び、市町村の役員など284名が参加して開催されました(写真)。



＜1日目＞午後3時から始まった全体会では、宮田本部長より日本スポーツ少年団の現状、問題点について次のような話がありました。

- ①サッカーくじ配分金
- ②指導者の再研修の問題(リーダーの研修も)
- ③海外交流
  - ・日独交流は、当分継続する。
  - ・中国との交流は、実施方法を検討する。
- ④学校週5日制に関して
  - ・この4月より実施されるが、少年団活動は子どもの負担にならないように、指導していくかなければならない。

続いて、佐藤副本部長より埼玉県スポーツ少年団の現状について、①平成13年度の登録状況 ②県本部の組織と役割 ③平成11年に行った団・指導者・団員のアンケート結果、などの説明がありました。そしてアンケートに答えて、広報紙の発行の準備、インターネットによる本部の情報公開、40周年記念事業の説明がありました。

全体会のあと11種目の分科会に分かれ、活発な意見交換や14年度の事業計画についての打ち合わせが行われました。

＜2日目＞各分科会の報告の後、桑原副本部長が①種目別大会においての中学生リーダーの育成を図る活動を促進 ②経費削減のため大会運営に知恵を出してほしい、とまとめました。

また、今回の研修会においてアンケート調査(①研修会の内容にどういうことを求めるか ②2日目の参加者が少なくなる理由 ③日程 ④その他)が実施され、調査結果を参考に、より良い研修会にしていきたいということで閉会となりました。

## 平成14年度種目別交流大会の予定

### <軟式野球>

第21回夏季小学生軟式野球交流大会

6月9・15・16日 北荒川運動公園

第27回小学生軟式野球交流大会

10月13・20・27日 11月3日

さいたま市荒川総合運動公園ほか

第25回中学生軟式野球交流大会

8月3・4・10日 さいたま市荒川総合運動公園

### <サッカー>

第31回埼玉県サッカー少年団大会

11月10・17日 (1・2・3回戦)

11月24日 (準決勝・決勝) 埼玉スタジアム

### <ソフトボール>

第25回ソフトボール中央大会

9月1・8日 北本市総合公園

### <空手道>

第18回空手道交流大会

9月1日 北本市体育センター

### <バレーボール>

バレーボール交流大会

2月1・2日 上尾市民体育館

### <柔道>

第24回柔道親善大会

8月25日 秩父市文化体育センター

### <バスケットボール>

第21回ミニバスケットボール交流大会

7月7日 北部地区

### <複合>

第22回複合種目大会 越谷市開催

第1案 7月14日 第2案 11月24日

### <ソフトテニス>

第23回ソフトテニス交流大会

北部大会 7月20日 小川町

南部大会 7月27日 さいたま市

中央大会 8月24日 熊谷市

### <バドミントン>

第21回バドミントン団体戦

12月8日 久喜市体育館

### 第8回バドミントン個人戦

3月8日 蓼田市総合体育館

### <剣道>

ブロック大会

東部A 7月7日 越谷市 東部B 6月 杉戸町

西部 6月2日 所沢市

南部 6月30日 草加市

北部 6月30日 大滝村

県交流大会 9月1日 秩父市文化体育センター

全国予選大会 12月1日 宮代町総合体育館

## 埼玉県スポーツ少年団からのアピール 「モラルの向上に取り組もう」

近年、子どもたちの心や身体の成長に変化が見受けられます。特に、体力テストに見られる身体運動能力の低下や犯罪の低年齢化などが挙げられます。

子どもたちを取り巻く社会環境の変化や、食生活を含む日常生活の変化が要因として大きいのではないかと考えられます。

こうしたことから、子どものころから地域社会の中でスポーツに親しみ、仲間との友情を育むことは大切なことであり、ここに、スポーツ少年団育成の本来の意義と目的もあります。

しかし、最近、スポーツ少年団活動は、単一種目の競技化が進んでいて、多くの団の中には、勝敗にこだわりすぎ、過度な練習や高度な技術の習得にばかり目が向き、スポーツの原点である「遊び=楽しい」ことを忘れている団もあるようです。

そこで、埼玉県スポーツ少年団では、生涯スポーツの基礎期としてのスポーツ少年団活動を、今後さらに充実・発展させるために、県内の全指導者、母集団の方々、そして関係者に対して「モラルの向上に取り組もう」と呼びかけます。

がんばってます！

### 埼玉県リーダー会

埼玉県スポーツ少年団リーダー会は昭和53年にリーダー相互の交流及び資質の向上を図り、県内のスポーツ少年団の発展に貢献するために結成され、平成14年度で25年目を迎えます。

活動内容は、研修会や交歓交流会などの主催事業のほか、埼玉県スポーツ少年団大会やジュニアリーダースクールなどの県本部事業への協力、複合種目大会の企画運営など、年間をとおして活発に活動しています。

この時期「卒団」という名前での大会や謝恩会などが行われ、中学に入るとスポーツ少年団から離れて行ってしまう子どもたちがいます。

単位団の中でも、各種お楽しみ会や合宿の企画立案・運営、母集団のサポートなど、さまざまな場面でリーダーが活動できる場面はあると思います。ぜひ、リーダーの育成をいま一度考えてください。

埼玉県リーダー会会长 江田哲也

### モラル向上への具体的な取り組み

#### 指導者の取り組み

- ・「主役は団員」ということを忘れず、そして公平な指導を
- ・発育発達を考えて過度な専門的指導は避けよう
- ・「団員は指導者の背中を見て育つ」と言われるところから、言葉使い、マナー、行動にはいつも注意を（飲酒や喫煙にも）
- ・スポーツルールを尊重し、楽しい活動を
- ・指導者は勉強をして、豊富な知識と効果的な指導に心がける
- ・「してみせて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」は指導の基本

#### 母集団の方々の取り組み

- ・親の満足ではなく、子ども自身の満足を考えて
- ・自分の子どもだけでなく、団員全員に育成の目を
- ・指導者の活動を理解して、連携を密に
- ・役割は進んで分担することが、クラブ運営の基本
- ・团費はみんなの活動費。月謝ではないことを理解して

このほかにも気づいたことは積極的に取り組みましょう。なぜなら、モラルは、良心や内心の命令として、個人の自発的意志や決断によって生み出されるものだからです。埼玉県スポーツ少年団はここに全県の関係者の皆さんに向けて「モラルの向上」を訴えます。ご理解、ご協力をお願いいたします。

### ◆お知らせ

昨年5月、浦和、大宮、与野が合併して「さいたま市」が誕生したあとも、少年団本部はそれぞれ個別に活動していましたが、平成14年3月末で解散し、平成14年4月に合併し、「さいたま市スポーツ少年団」として発足します。大会運営など変更があると思いますが、ご協力をお願いします。

### 編 集 後 記

県スポ少だよりを創刊するにあたり、どんな情報を、どのような形で出そうかと編集委員一同で考えてきました。その結果を判断されるのは皆さんですが、情報の豊富さと同時に分かりやすさ、見やすさを心がけ、編集いたつもりです。

今後は一方通行の情報提供だけでなく、広報をとおしてコミュニケーションを取りたいと思いますので、地域の話題や県本部に対する質問等をお寄せください。

埼玉県スポーツ少年団事務局気付「育成広報委員会」  
〒336-0007 さいたま市浦和仲町3-58 県立武道館内  
TEL: 048 (822) 5171 FAX: 048 (822) 5174  
E-mail: saitamaken@japan-sports.or.jp  
(題字は童画家 池原昭治氏)